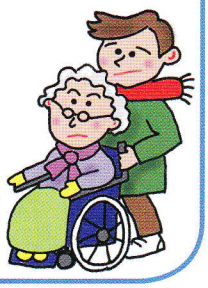
AOBA NO KAZE
あおばの風
第79号
青葉区民生委員児童委員協議会

こんにちは 民生委員・児童委員です

生活のこと
- ひとり暮らしで さみしい
- 高齢者世帯で 何かあった時に不安だ
- 災害時には避難の 手助けをしてほしい

介護のこと
- 介護ばかりで 自分の時間がない
- 介護保険は どうやって使うの？
- おばあちゃんのために 住宅を改修したい



私たちはあなたを 必要な支援につなぎ ネットワークで 支えます!! 安心して ご相談ください

お金のこと
- 生活費が足りない
- 子どもの進学費が 足りない
- 退職後の 生活費が不安だ

子育てのこと
- 子育てのことを 相談できる人が欲しい
- 子育てが うまくいかずに不安だ
- 子どもを叩いてしまいそう

福祉サービスのこと
- 骨折して家事ができず 困っているけれど どこに相談していいのか分らない
- 障害者手帳を申請したい
- 配食サービスを利用したい

ご近所のこと
- となりの家から怒鳴り声と 子どもの泣き声がすごいけれど…
- 最近、○○さんはゴミの分別が できていないみたい
- ○○さんの家に何日分も 新聞がたまっている

民生委員は児童委員を兼ねています。 児童、妊産婦の支援を専門に担当する主任児童委員がいます。

＊発行人　青葉区民生委員児童委員協議会会長　吉村春美　＊事務局　青葉区福祉保健課運営企画係　TEL 045-978-2433
https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/fukushi-kaigo/chiikifukushi/minsei/

回覧												

承認
青葉区第13号

青葉区では あおば災害ネット を導

～青葉区災害時要援護者避難支援システム～

平常時

《登録》　支援を受けることを希望される方の申込制で、地域の担当民生委員が希望者の自宅を訪問し、一緒に『支えあいカード』を作成

《情報共有》　作成した『支えあいカード』は５か所で厳重に管理
- 区役所（原本）
- 本人（写し）
- 自治会・町内会（写し）
- 地域防災拠点（写し）
- 民生委員（写し）

災害発生時

自治会・町内会、
で安否確認や避難

あおば災害ネット活用例

＊＊＊災害が発生した時に頼りになるのは 地域の

＊台風15号による避難連絡＊　中里北部地区

９月８日（日）関東地方を襲った台風15号の影響で、夕方より防災ラジオから避難勧告の情報が伝えられた。そして、鶴見川近くの寺家町や鴨志田南では、この地域の防災拠点運営委員長から民生委員に連絡があった。「あおば災害ネット」登録者に電話をして、安全な場所へ避難するよう促した。

＊町内会役員と一緒に訪問

民生委員と下市ヶ尾町内会役
を確認している。緊急時の避難
ている地区もある。

また、町内会役員、地域防災
連絡会議を持ち、支えあいカー
動できるように協力体制を整え

グループ研修

令和元年６月25・26日　於：青葉区役所

はじめに福祉保健課から民生委員・児童委員の見守り事業について説明がありました。その後５～６人のグループに分かれて情報交換をしました。

青葉ふれあい見守り事業　全体研

令和元年10月３日　於：青葉公会堂

愛知東邦大学人間健康学部教授　西尾　敦史
(山内地区)、「高齢者にやさしいまちを目指して
区・柿の木台町内会）と座談会が行われました

（＊青葉ふれあい見守り事業：ひとり暮

入！

災害発生時に一人では避難が困難な高齢者や障害者（要援護者）の安否確認や避難誘導などが、近隣の助け合いにより行えるよう、あらかじめ要援護者の情報を地域の自主防災組織（自治会・町内会など）が共有するためのシステムです。登録は希望者からの申込制です。

平成31年４月現在　３千人以上登録！

地域防災拠点が、『支えあいカード』をもとに、可能な範囲支援を行う

あおば災害ネットのお問い合わせは

青葉区役所

- **民生委員に関することは**
  福祉保健課運営企画係
  TEL 045−978−2433
- **地域防災拠点や防災に関することは**
  総務課庶務係 TEL 045−978−2213
- **福祉・介護サービス等に関することは**
  高齢・障害支援課　高齢・障害事務係
  TEL 045−978−2444

力！ご近所で助け合いができるといいですね！＊＊＊

＊　市ヶ尾地区

員が、支えあいカードの登録者を訪問して近況ルートの確認など支援方法の話し合いを実施し

拠点運営委員と民生委員の三者で定期的に防災ドの見直しを行い、災害時には一体となって活ている。

＊自治会との連携強化＊　山内地区

自治会の定例会で民生委員が活動状況を報告することで、あおば災害ネットへの理解と連携が進んでいる。また、連携が強化されたことにより、自治会議事録を読んだ住民からいろいろな相談や連絡が民生委員に寄せられるようになった。

修会　お互いに見守り支え合う地域づくり　～身近な事例から考える活動のヒント～

氏による講演がありました。続いて事例報告「訪問員さんとともに」（谷本地区）、「番地単位のつながり・見守りの取り組み」（上谷本地

らし高齢者等を対象に民生委員が定期訪問・電話等の見守り活動を行う）

主任児童委員だより

こどもの心と体を守ろう
ストップ・ザ・犯罪 第21回講演会　2019.7.2

ネット・スマホ世代の子どもとどう向き合うか…

ジャーナリスト 石川 結貴 氏

石川 結貴 氏：家族・教育問題や青少年のインターネット問題などをテーマに豊富な取材実績と多数の話題作を発表している。

ネット・スマホは、大人も子どもも今や生活の一部になっています。しかし、使い方を誤るとトラブルや犯罪につながります。

トラブルを防ぐために大人ができることは…

- **一方的に「危ない」「使うな」というのではなく、子ども自身で考えるために具体的な情報を伝える**
  ⇨１日３時間使用すると年45日になる。
  「自撮り」写真で撮影場所・時間などが流出する。
  利用料金を確認するなど。
- **ネットの世界のやりとりを現実世界におきかえて考えることができるようにする**
  ⇨ＳＮＳやアプリなどで知らない人と簡単に繋がることは、突然訪問してきた見知らぬ人を信じるのと同じこと。
- **現実世界で受け止めてくれる大人がいないためにネットの世界に逃げ込むケース**
  ⇨子どもとの絆や信頼関係を作る。親自身が失敗したこと、恥ずかしかったことなど経験談を話す。「生身のコミュニケーション」が子どもたちを変える。

それでもトラブルが起こってしまったら…

相談窓口を積極的に利用し、一緒に対策を考え取り組んでいく。自分の子どもは何があっても守る気持ちで真剣に向かい合い、親は子どもを守る責任を負うことが大事。

家族の信頼と地域とのつながりで、子どもたちの純粋な心をネット・スマホから守ろうと思いました。

（青葉台南部地区　下山元子）

編集後記

今年は自然災害が多く発生し、各地で大きな被害がでました。それぞれの家庭で備えも必要ですが、いざという時にご近所どうしの助け合いは心強いものです。地域の中でつながりをもつことは大切だと改めて感じます。　（村　上）

コラム あおばのかぜ

「HUG」のこと知っていますか

９月１日、梅が丘自治会の防災訓練があり、午後からは「HUG（ハグ）」体験をしました。「HUG」とは『避難所・運営・ゲーム』の頭文字をとったもので、「抱きしめる」という意味も含んでいます。避難者をやさしく受け入れるイメージと重ね合わせて名付けられたものです。

災害時地域定点医療拠点の谷本中学校は、横浜青葉インターチェンジから近いこともあって、大震災時は地域以外の多くの人たちが避難して来ることを想定しなければなりません。自治会ではまず少人数で「HUG」を体験しました。

もえぎ野地域ケアプラザの方から映像による説明を受け、参加者25名が４チームに分かれゲームを行いました。最初にチームリーダーと記録担当を決めます。４チームには、被災者の年齢や性別などの書かれたカードが渡されます。読み手がカードを読み上げると、チームリーダーは被災者をどう受け入れるかを速やかに判断し、避難所の中に誘導の指示をし、記録担当はそれを記録していきます。例えば、高齢者、乳幼児、障害のある人、ペットと共に避難してきた人、車で避難してきた家族、高速道路から降りてくるバスの旅行者など、避難者カードの内容は様々です。チームリーダーが即座に判断して、谷本中学校避難所の拡大見取り図の中にそのカードを置いていくのです。あっという間に避難所はいっぱいになりました。

地域防災拠点運営委員長は、「HUG」をぜひ多くの人たちに広めていきたい、体験をすることで、避難してきた人にも避難所運営に協力してもらえそうだと、期待を込めて話していました。

毎日のように全国のどこかで地震が発生しています。いざという時にはパニックにならずに私も対応できそうな手ごたえを感じました。

（谷本地区　豊﨑智子）

広報部代表　豊﨑 智子
第79号担当　雨宮 量夫　油川 正樹　角田 仁子
黒石 エリナ　白井 千鶴　冨川 貴子
前原 由美　村上 希史子　山市 典子